

2. 生協や学校給食に安全でおいしいみかんを提供

～ 消費者との交流も活発 ～

1) グループの概要

昭和59年、生活改善グループ「わかば会」を組織し、みかん栽培や経営管理技術等の修得、消費拡大等の活動を展開してきた。

昭和63年、消費者に生産状況を知ってもらうとともに、消費者の声を聞きたいと生協組合員との交流会を開催した。

また、消費者においしいみかんを提供したいと、交流園を設定し、土づくりと栽培管理に手間ひまをかけて農薬散布回数を減らしていった。

生協組合員との収穫体験交流等を定期的で開催して、食と農に関する情報交換などして、みかんの供給をするようになった。

平成8年からは、学校給食へもみかんを提供している。

グループ名：わかば会

所在地：小城郡小城町大字晴気

代表者：松本ケイ子

構成員：8人



わかば会のメンバー

2) 取組み内容と特徴

(1) 栽培

3 a の共同園を設けており、土づくりや栽培管理等に力を入れて安全で美味しいみかんづくりに取り組んでいる。

土づくり

- ・土づくりが栽培の基本ということで、ホーレーで土を深く耕したり、畜産農家の完熟堆肥を購入して投入している。
- ・JAの果樹堆肥や油かす等の肥料を使っている。
- ・剪定くずをチップーにかけて、園地にもどしている。

栽培管理

- ・葉に光が当たるように整枝し、枯れ枝の除去に心がけ、黒点病等耕種の予防に努めている。
- ・品種毎に施肥、栽培管理を行い、樹木の観察をこまめにしている。

病虫害防除

- ・マルチ等により、除草剤・殺菌剤を減らす工夫をして、完熟で採集し、見かけは少々悪くても味を大切にされた栽培に心がけている。
- ・防腐剤や着色剤は使用していない。



生協組合員との収穫体験交流

(2)流通

生協への販売

毎年10～11月頃、生協佐賀中部エリアの組合員とミカン園で交流会をして、栽培状況を説明したり収穫体験で、農業・農村に対する理解を浸透させている。

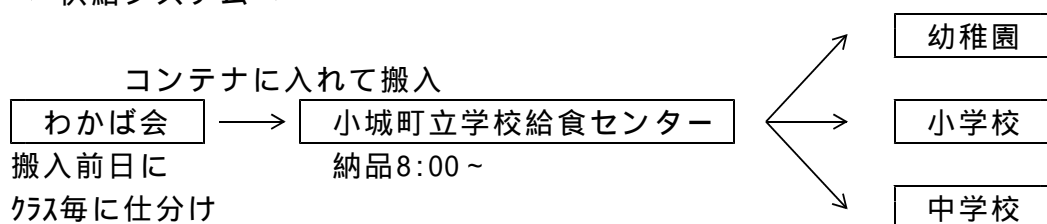
また、生協配送センターでの交流会や県内各地でのイベント等にも積極的に参加してPRに努め、ポンカンや中晩柑セット等を中心に販売している。

学校給食への供給

安全でおいしいみかんを地域の子供達にも提供したいと町に申し入れて、平成8年から、10月～2月に10回（月2回）学校給食に早生温州～中晩柑のポンカン等を提供するようにした。

供給は、1ヶ月前に給食センターからFAXで注文があるので、幼稚園、小学校、中学校ごとにコンテナに入れて、当日の8:00までに町立学校給食センターに搬入している。（1回に200kg程度）

< 供給システム >



3) 関係機関・団体の支援等

(1)栽培技術の指導

土づくりや有機質堆肥投入、減農薬栽培に関する技術指導、情報提供、先進地事例紹介等

品種更新、マルチ栽培等消費者ニーズに沿った生産活動推進

(2)農村女性グループ研究会活動への支援

労働力補完活動・・・「お助けウーマンウィンドウズ'95」活動支援

農村女性活動推進・・・消費者との交流活動等推進（「農村女性チャレンジ'21事業」の導入）

環境にやさしい農業の推進・・・EM菌利用のぼかしづくり

地産地消活動の推進・・・直売・交流活動、各種イベント参加等への支援

4) 今後の方向

(1)減農薬・有機質利用栽培に関する研究会等を重ね、よりおいしく安心して食べられるみかん栽培技術を向上させ消費拡大につなげる。

(2)EM菌ぼかし肥料を女性グループで作っているのので、みかんだけでなく野菜も供給できるようにする。

(3)みかんを中心として、農業・農村に関する情報の発信や交流活動を活発にしていく。